

# 金利上昇の影響、 企業の48.3%が 「マイナスの方が大きい」

中小企業の経営環境は一層厳しさを増す

## 静岡県・金利上昇による企業への影響調査(2025年12月)



本件照会先

竹岸 隆浩(調査担当)

帝国データバンク

静岡支店

TEL:054-254-8301

info.shizuoka@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/02/09

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## SUMMARY

金利の上昇が自社の事業に与える影響は、「マイナス影響の方が大きい」が前回調査(2024年4月調査)から8.5ポイント上昇し、48.3%となった。また、「どちらとも言えない(±で相殺)」が23.6%で6.2ポイント低下した。今後も金利の上昇が継続することが見込まれる現状で、この傾向はさらに顕著となる可能性が高い。

借入金の多い中小企業にとっては、金利の上昇による支払利息の増加で利益が圧迫され、経営環境は一層厳しさを増すことが懸念される。

※株式会社帝国データバンクは、全国2万4,274社を対象に、「金利上昇による企業への影響」に関するアンケート調査を実施した

調査期間:2025年12月16日~2026年1月5日(インターネット調査)

調査対象:全国2万4,274社、有効回答企業数は1万662社(回答率43.9%)

抽出対象:静岡県内企業681社、有効回答企業数は296社。(回答率43.5%)

## 金利上昇の影響、「マイナス影響の方が大きい」が約半数

日本銀行の政策金利の引き上げに連動して、長期プライムレートは、2025年1月10日の2.00%から2026年1月9日現在で2.75%となり、1年間で0.75%上昇した。そうしたなか、金利の上昇は自社の事業にとってどのような影響があるか静岡県内企業に尋ねたところ、「マイナス影響の方が大きい」と回答した企業が48.3%となり、前回調査(2024年4月調査)から8.5ポイント上昇した。次いで、「どちらとも言えない(プラスとマイナス両方で相殺)」が6.2ポイント低下し、23.6%となった。金利の上昇が進むにつれ、プラス影響よりもマイナス影響を大きく感じる企業が増加している。

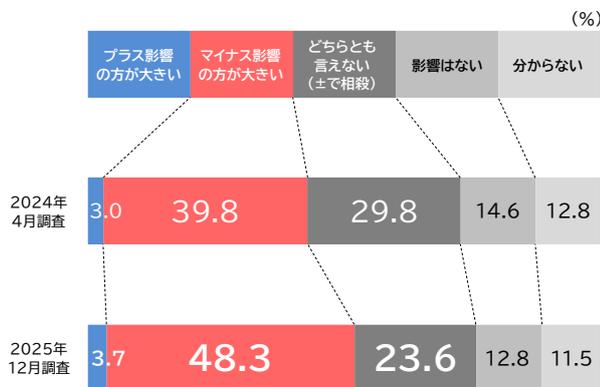
主要6業界別にみると、「マイナス影響の方が大きい」では、前回最多の『運輸・倉庫』が前回比8.5ポイント増の61.1%でトップとなった。次いで、『製造』(56.9%、同10.3ポイント増)、『建設』(52.5%、同4.9ポイント増)が5割台で続いた。なお、『卸売』は前回調査から14.1ポイント増加となり、最も大きい上昇幅だった。

企業からは、「現在の円安基調が円高に振れることで原材料の調達がしやすくなるため、もう少し政策金利は上げてくれたほうが良い」(サービス)との意見があった一方で、「金利が上昇しても、その分が替レートが円高になれば自社の利益は増加するが、金利上昇後も円安が変わらない状況下ではコストアップだけであり、デメリットしかない」、「借入金が多額で影響は大きい」(製造)、「借入金利の上昇、資材購入コストの上昇になると思うが避けられないかと思う。対応策としては新たな取引銀行を探すことくらいか」(サービス)などマイナスの意見が多く聞かれた。

金融政策の正常化を図るなかで今後も金利の上昇が継続することが見込まれる現状において、この傾向はさらに顕著となる可能性が高い。また、借入金の多い中小企業にとっては、支払利息の増加で利益が圧迫され、経営環境は一層厳しさを増すことが懸念される。企業は、借入方法の見直しのほか、価格転嫁やコスト削減など返済原資の確保を行うための対策を検討・実施することが求められる。

### 企業の金利上昇の影響 推移

金利上昇の影響 推移



注1: 2024年4月調査の母数は有効回答企業329社。2025年12月調査は296社  
注2: 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

主要6業界別「マイナス影響の方が大きい」推移

業界別	2024年4月調査 (%)	2025年12月調査 (%)	前回比 (ポイント)
全体	39.8	48.3	+8.5
建設	47.6	52.5	+4.9
製造	46.6	56.9	+10.3
卸売	26.3	40.4	+14.1
小売	38.5	41.2	+2.7
運輸・倉庫	52.6	61.1	+8.5
サービス	27.3	36.0	+8.7